紙面から

教育随想
「三つ子の魂―園長日記から―」
みやこ幼稚園長　嶋田　稔氏
この人に聞く
能楽師範　羽多野良子氏
特集
「人にやさしい　明るい教育施設」
岡崎市四十二番目の小学校として
六ツ美西部小学校開校
師弟同行
安藤キヌ子・明保俊通
フォト・ヒストリー　岡崎の教育
教室の消毒（S30　井田小学校）

5 月号

平成９年５月１日
発行／編集
岡崎市教育委員会

（指導員さん，ありがとう。ルールをきちんと守ります。 ― 梅園小）

— 教育随想 —

三つ子の魂

園長日記から

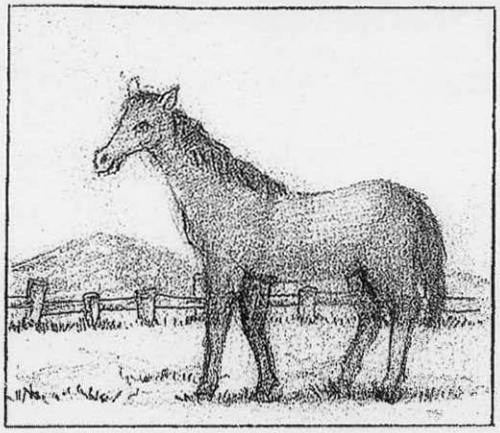
みやこ幼稚園長
嶋田　稔

某月某日

PTAの会合で、「子どもにイヤリングは遠慮してもらいたい」と話す。

休みに家族で遊びに行くなら、おしゃれは勝手だが、幼稚園では、大勢で走ったり転がったりする。落としたりするし、危険でもある。

こういうことも説明しないと分からないらしい。



某月某日

あれだけ夏を謳歌したせみも、弱ってきて元気がない。ふらふらっと木から落ちてくる。そこにちょうど子どもがいた。

「せんせい、木とまちがえて、せみがぼくにとまったよ。」

子どもの名字は青木君だった。

「お、せみはえらいなあ、名札の字が読めたんだ。青木という木にとまったんだね。」

このしゃれは、幼児には通用しなかった。

某月某日

運動会。好天に恵まれ無事終わる。いつもながら観客が多い。家族総動員というところだ。有り難い話だ。

子どもの行進、体操、五歳児の組み立て体操など、小さな子たちがよくぞここまで、という感がある。

ところが、拍手が非常に少ない。学校でもそうだった。父親はビデオ、母親はカメラに夢中。拍手をすれば、大事なカメラが落ちてしまう。

自分の目で見ずに、レンズでしか見ないから、生の感動が伝わらない。

某月某日

おじいさん・おばあさん参観日。いやはや、その若いこと。五十代のおじいさんおばあさんは、ざら。「おじいさん・おばあさん」と呼ぶには気が引けるが。

孫を見に来てくれるのはいいが、中には子ども一人に祖父母四人も。

某月某日

五歳児に「大きくなったら何になりたいか」聞く。

男子では、圧倒的に多いのが、スポーツ選手。サッカー・マラソン・バスケット・ゴルフ・野球・空手。大工さん、警察官がちらほらあってほっとする。

女子は花屋さん、ケーキ屋さんが人気の的。看護婦さんや幼稚園の先生もあり、これは昔と変わらない。

某月某日

四歳児だが、このごろ漢字に興味を持ち出したA君。

「せんせい、木を二つかくと、もやしという字だよ。」

「ん？なに、もやし？」と、びっくり。はて、そんな字があったか。

書いてくれたのは『林』。なるほど、ハヤシとモヤシ、よく似ている。

（しまだ　みのる）

「寅さん」から学ぶ

六ツ美南部小学校長
織田和幸

先日、山田洋次監督の「男はつらいよ」をテレビで見た。主人公の寅さんが、手に届くはずのない、薄幸の美女に惚れて、献身的に尽くすが、やがて失恋するはめになり、そっと去っていくという筋書きであった。寅さんのいちずさと温かさが心に強く残った。

寅さんのファンは中年層に多いと聞く。しかし、二十歳の若い人に聞くと、寅さんの行動はあまりピンとこないそうだ。それは、

「寅さんの押しつけがましい善意とか正義感とか優しさとかがいやだ。」

ということらしい。

二十代の者にしてそうだから、中・高生は、もっとピンとこないであろう。彼らの言う「優しさ」というのは、自分が少しは犠牲になっても、相手に尽くすというものではなく、ほどほどのつきあい、深入りし

ふるさとシリーズ

この人に聞く

金剛流能楽師範

羽多野良子　氏

昨年十一月に柿落(こけらお)としが行われた花朋会(かほうかい)の能舞台を大西町にお訪ねした。

外観は鉄筋の堂々とした洋風建築である。中には厳粛な能舞台があり、広い空間に何とも言えぬ静けさと壮麗さを漂わせている。

羽多野さんと能との出会いは高校一年の時だった。菩提寺である随念寺（伝馬町）で初めて見た能。音楽に親しむ家族の中で育った羽多野さんは、能に驚きと感動を覚えた。高校二年の終わりには、京都で、直接の師匠の能を見て、ますますその世界に引き込まれていった。

「能を初めて見た時、これだと思いました。能の魅力は、まず三方吹き抜けの舞台そのものに意味がある芸能である点です。その何も置かれていない舞台で、囃子(はやし)と謡(うたい)がバランスを保ち、息と間とで進められていく能の緊張感に感動しました。」

流派である金剛流の家元が京都在住であることから、京都の大学に進み、五年間修業された。岡崎に戻り二年後に師範となり、現在は能楽協会の会員として活躍しておられる。

舞台に立つまでの稽古について伺った。

「ここはこうやって舞おうなどという次元ではなくなっています。次に出る足、次に出る手が自然に出るように訓練し、舞台に出るときには、無心に舞えるように努力します。」

伝統芸能である能の世界には今も女性を入れないところが多い。例えば、装束(しょうぞく)や面(おもて)が男寸法であること、また地謡方の音と女性の声とでオクターブ違ってしまう点などがある。女性には厳しい世界ではあるが、苦労を苦労と思わず、能の持つ可能性と魅力を熱心に語られる。能舞台は、最近では、能にヒントを得たオペラの会場にも活用された。

「催しを持ってくるのは、舞台を見ていただくきっかけになるようにと思うからです。京都では、能楽がもっと身近な芸能でした。岡崎の方にも、ここを拠点として能の魅力を広く知っていただきたいと願っています。」

受け継がれてきた古典芸能の奥深さ。羽多野さんの夢は、新築された能舞台と共に、今第一歩を踏み出したところなのであろう。

（氏　名　はたの　よしこ
生年月日　昭和三十六年四月九日
住　所　中町五丁目二番地十五）

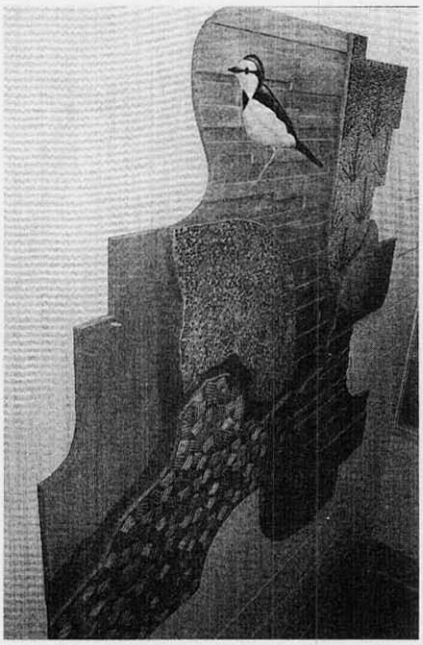
ないつきあい、面倒をかけないことが優しさのように思える。よく言えば、お互いのプライバシーには入らない、ということになるが、言葉をかえれば、知り合いはたくさんいるのだが、深く結びつくことを欲していないようにも思える。今日のいじめの問題もそういった風潮と関連しているのではないか、という気がしてならない。

寅さんの映画に出てくる近隣の人たちは、お互いに顔見知りであり、特に、向こう三軒両隣ともなれば、親戚以上に親しく、何かと頼りにし合っている。寅さんが彼女をつれて実家に帰って来ようものなら、多くの者が家まで、彼女を一目見ようと押しかけてくるしまつである。それだけ人に関心をもち、つながりを求めているとも考えられる。

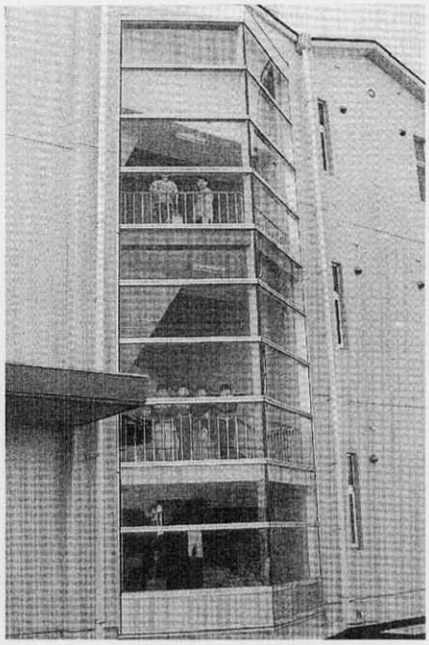
子供の世界でも、かつてはがき大将を中心として遊び、けんかのしかたやつきあいのルールを学んできた。それがなくなった現代では、学校教育の中で、それを補う活動が試みられているのは、意味があると思う。

時代と共に世の中が変わっていくのはやむをえないが、失ってはいけないものを真剣に考えなければならない時がきていると思う。

人にやさしい明るい教育施設



▲光の庭のアートレリーフ



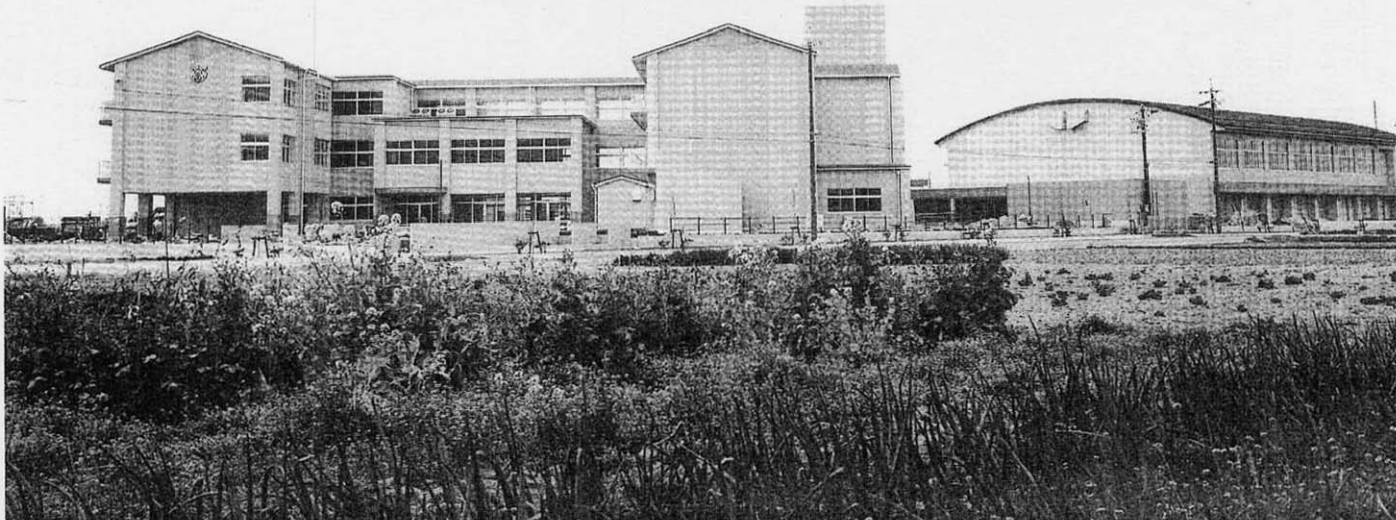
▲ガラス張りの明るい階段

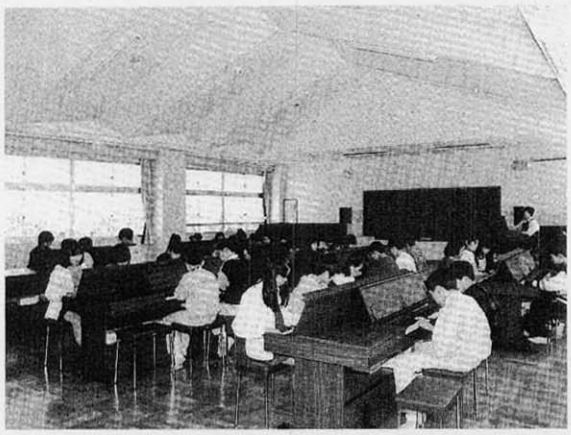
新設・六ツ美西部小学校

市内四十二番目の小学校として、本年四月七日、六ツ美西部小学校が開校した。

住宅地の景観を配慮した、市内で唯一の切り妻屋根の三階建校舎が、南向きに建てられている。

校舎内により多くの光を採り入れるための工夫がいたる所にされている。ガラス張りの階段、大きめの窓を取り付けた一階の低学年教室、吹き抜けの中庭、校舎内のカラフルな色づかい、それらは子供たちの心までも明るくさせてくれるようである。

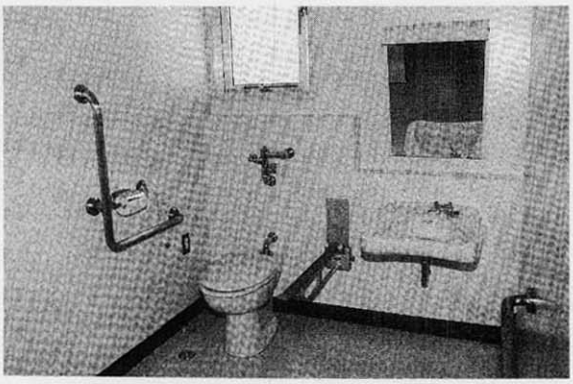




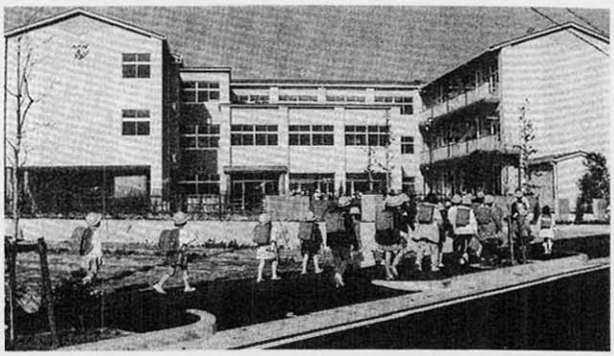
▲切り妻屋根を生かした天井の明るい音楽室

▲手すりのついたカラフルな階段

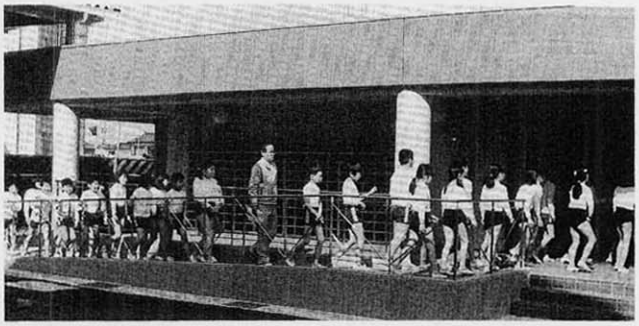
▲かばんもしっかり入るロッカー



▲身障者用の便所



◀切り妻屋根の校舎へ登校



▶体育館へのスロープ

また、人に優しい造りも多く見られる。学年に合わせて手洗いの高さを変えたり、体の不自由な子供のために昇降口をはじめ、多くの場所にスロープが、そして、階段には手すりがつけてある。

使う人のことを考え、これからの学校教育はいかにあるべきか、校舎がここで学ぶ児童に語りかけているようである。

二十一世紀の担い手として、人に優しい、明るい元気な子供たちの声が学区まで響きわたっている。

▲低学年の高さにあった手洗い場

K子の「優良賞」

竜南中学校
山本　伸

四月、校長室でヘアーバンドを巻いたK子に出会った。髪の毛を気にする彼女の姿はどこか弱々しかった。

しかし、元来、明るい性格であり、すぐに学級にも溶け込んでいった。が、むしろ心配だったのは彼女の自分勝手な性格であった。

わがままな彼女の言葉が、周りの雰囲気を壊すことが、幾度か見られるようになってきた。

ある日、彼女の口ぐせの「変なの。やめてよ。」の人をけなす言葉に、私はだまっていられなかった。

「それは、君が一番言われたくない言葉じゃないのか。言われた者の気持ちが一番わかるのは、君自身じゃないのか。」

髪の毛のことを気にしてきたK子には、特に人の気持ちを分かってほしかった。K子は私の言葉に驚き、

「ごめんなさい。」

と小声で言うと、後はただ涙を流しながらたたずむだけだった。

その後、彼女は変わった。K子は、文化祭の合唱コンクールの実行委員に立候補した。以前ならば文句を言ってすぐあきらめていた彼女が、仲間に文句一つ言うことなく、私や議員と相談しながら、自分たちの合唱を作りあげていった。合唱コンクールを終え、「優良賞」を勝ち得た彼女の顔は、喜びと満足感に満ちあふれていた。

やさしさと厳しさ

北中学校
明保　俊通

中学一年生の学級写真を見ると、若く美しい女教師と純真で希望に満ちあふれた少年が写っています。教師が担任の安藤キヌ子先生で、純真な生徒が私です。

当時の先生は、教員になって三年目の意欲満々の若き教師で、私たち男子生徒は胸をときめかせたものでした。

先生の学級経営は、やさしさと厳しさを合わせ持ち、一人一人の生徒の個性をうまく引き出してくださいました。また、機知に富んだユーモアは教室を明るくするだけでなく、生徒の心を和ませ、やる気を喚起されました。

特に、学級新聞作りや学芸会での先生の細かいところに気を配られたご指導は、私の教師生活に大きな影響を与えてくださいました。

私にとって一番の思い出は時々、先生を自転車で本宿駅までお送りしたことです。中学一年生の体力では、先生が荷台に乗られると、ふらふらと蛇行する危なっかしいものでした。苦労して駅までたどり着いて「明保君ありがとう。」と言われた時の喜びは格別でした。

私に良き思い出ばかり与えてくださった安藤先生、末長く健康でお過ごしください。

淡々と我が道を行く

羽根子どもの家
安藤　キヌ子

明保俊通先生との出会いはおよそ、四十年前のこと。

当時、中学校では女性教師は担任がなかったのに、校長先生にぜひにと頼んで持たせて頂き、喜びいっぱいの新米教師と、元気いっぱいの中学一年生の明保少年です。

その頃から「淡々と我が道を行く」といったタイプで、体格もよく実に頼もしい少年でした。

教師となられて十四、五年たった頃『君はM31を見たか』を出版されました。わかる授業に向けて、科学する教師の熱意がほとばしるのを感じ、心から拍手を送りました。

さらに四、五年して、ハクセキレイの研究で教育文化賞を受けられました。我が事のように誇らしく、胸が熱くなりました。式典のあとの記念写真も大切にしています。

仕事の関係で、奥様にもお逢いしまして、聡明で思慮深い方とお見受けし、安堵いたしました。

教師の生活には健康が何よりです。身体に十分注意されて、教師の道を極めていかれることを祈っています。

お知らせ

◆平成九年度校長会役員

〈小中学校長会〉

会　長　岩瀬　則次(竜南中)
副会長　中山　昌司(六名小)
　　稲葉　浩之(常磐小)
　　長谷川四郎(新香山中)
顧　問　古橋　睦典(梅園小)
　　小久保　良(竜海中)
会計監査　牧野伊佐夫(竜美丘小)
　　深津　浩甲(山中)
庶　務　長坂　則彦(三島小)
　　深津　武司(葵　中)
会　計　熊谷　満義(井田小)
　　清水　厚治(六北中)
会計補佐　長谷川晴彦(矢北中)
評議員　畔柳　吉朗(根石小)
　　荻野　恭功(奥殿小)
　　近藤　正義(矢北小)
　　有我　亮介(広幡小)
　　清水　淳吉(矢東小)
　　山本　禎夫(緑丘小)
　　後藤　晶基(北野小)
　　伊藤　安彦(連尺小)
　　竹内　昭次(秦梨小)
　　内堀　博之(岩津中)
　　大久保　正(東海中)
　　柴田　修一(河合中)
　　岡安　信彦(南　中)
　　小田　紀夫(北　中)
　　二村　邦彦(矢作中)
　　筒井　一夫(城北中)

〈小学校長会〉

会　長　中山　昌司(六名小)
副会長　稲葉　浩之(常磐小)
　　牧野伊佐夫(竜美丘小)
会計監査　畔柳　吉朗(根石小)
庶　務　長坂　則彦(三島小)
会　計　熊谷　満義(井田小)

〈中学校長会〉

会　長　長谷川四郎(新香山中)
副会長　深津　浩甲(山中)
　　深津　武司(葵　中)
会計監査　内堀　博之(岩津中)
庶　務　大久保　正(東海中)
会　計　清水　厚治(六北中)
会計補佐　長谷川晴彦(矢北中)

〈専門委員会委員長〉

法　制　岡安　信彦(南　中)
理　財　鈴木　敏雄(大樹寺小)
給　与　杉浦　正明(羽根小)
文　教　熊谷　満義(井田小)
進　路　清水　厚治(六北中)
研　修　小田　紀夫(北　中)
保　体　山本　廣子(藤川小)
福　安　筒井　一夫(城北中)
給　食　二村　邦彦(矢作中)
広　報　白井　正壮(生平小)
生徒指導　平野　有行(美川中)

◆平成九年度研究発表校

・六月二十日　六ツ美北中
「生徒一人ひとりの自己実現をめざす教育の創造―『個』から、『かかわり合い』、そして『個』へ―」　(市指定)
・六月二十四日　竜海中
「わかる学習」第六年次研究の二年次
「自ら追究する生徒の育成―教科指導を中心にして―」
・七月四日　男川小
「感動のある学習と生活―地域を知り、地域から学ぶ―」
・十月三日　梅園小
「自ら考え、進んで学びとる力を育てる授業の在り方」　(市指定)
・十月八日　山中小
「スクラムで築く健康教育―えがおいっぱいの健康な子供を求めて―」
・十月二十二日　北　中
「自ら学ぶ力を育てる―学習情報センター活用の試み―」
・十一月十一日　六名小
「自ら学び実践する子の育成―豊かな心を育む実践活動を求めて―」
・十一月十八日　常磐南小
「力いっぱいできる子の育成をめざして―個を生かす学習指導―」

◆平成九年度市教育委員会学校訪問

・五月十五日　根石小
・五月二十九日　広幡幼
・六月十九日　南　中
・六月二十六日　福岡小
・九月二十五日　本宿小
・十月三十日　矢作西小
・十一月十三日　河合中
・十一月二十日　六ツ美西部小
・一月二十二日　大門小

▲4月16日　現職教育委員会総会　新香山中

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

教室の消毒（昭和30年）

写真提供　井田小

戦後復興期の昭和二十年代後半、夏になると伝染病の発生と蔓延に悩まされることが続いたという。

記録によれば、昭和二十六年から二十八年までは、赤痢が発生し、市内で毎年二百五十名を上回る患者と二十五名をこえる死者を数えた。赤痢の流行が下火になると、日本脳炎が昭和二十九年から三十一年にかけて流行し、市民に大きな恐怖を与えた。

この写真の「消毒」が、これらの伝染病と関係するのかどうか、それとも当時一般的に行われていた害虫の駆除なのか、岡崎保健所と市保健課のどちらにも記録が残っていないためはっきりしないが、写真からはそのころの様子をうかがい知ることができる。

・表紙写真　梅園小　小林義孝
・カット　東海中　石橋一美

この本を

＊アラシ　今野　保
中公文庫　¥680

＊故宮　3　陳　舜臣・中野美代子
ＮＨＫ取材班
ＮＨＫ出版　¥2000

＊勝負の極北　藤沢　秀行・米長　邦雄
クレスト社　¥1648

＊遠い「山びこ」　佐野　眞一
文春文庫　¥590

＊「考えることの教育」（講演集第4巻）和田義信
第一法規　全８巻揃　¥50000

数学教育の関係者ならだれでも知っている著者の講演・著作全集全８巻が刊行された。市内の全小中学校には，教育委員会のご配慮で購入していただけることになっている。

第４巻「考えることの教育」は，算数数学一教科の問題にとどまらず，教育全体に対して大きな示唆を与えている点で見逃すことのできない論考である。20年ほど前，「教育学研究全集」（第一法規）の一巻として読んだ時の感動を思い出す。

オアシス

岡崎の戦後は、し尿処理業者の不足や上水道の不備から、伝染病が発生しやすく、多くの被害者を出したという。

五十年近くたった今、衛生面では随分向上したが、Ｏ－一五七のように新たな病気も現れてきた。衛生に対する配慮は、いつの時代も大切である。

市内四十二番目の小学校として「六ツ美西部小」の開校である。

子供たちの温かな人間関係が、新設校の歴史と伝統を作っていく。

学区の成長発展と、学校への期待に支えられて、子供たちは明るくのびやかな成長を続けてほしいものである。

鮮やかな新緑が目に眩しい季節となった。山並に目を向けると、一口に「緑」では片づけられない、様々な「緑」のあることに気づく。

いつも身近な存在の子供たちも、一人一人が違った色で輝いている。その色の重なりを大切にしたい。

すり足で、腰をかがめて進む足運び。剣道にも通じるその足運びは、武士道と共に発達してきた能の歴史を物語っている。

能は、足元に重点を置くという。装束に隠れて見えない足元に、すべての神経が集中されている。